

教育目標(すすんで学び 思いやりのある たくましい子ども)

坂東太郎

伊勢崎市立坂東小学校 学校通信 令和3年2月8日(月)第19号 文責：校長 内藤

※「坂東太郎」は、坂東小ホームページ(校長室通信)でもカラー版でご覧になれます。

「教育アンバサダー」でキャリア教育① 1月21日 宮大工の棟梁(とうりょう) 生形 雄一さんの巻

本市出身やゆかりのある方が「教育アンバサダー(伊勢崎市教育委員会委嘱)」として、市内の小学校、中学校などで特別授業をしてくれます。坂東小でも、1月21日に6年生が、殖蓮中出身で宮大工の生形雄一さんから社寺建築に携わる宮大工の仕事のお話を聞いたり、かんながけやのこぎり引きの体験をしたりして、様々な職業を知り、将来の自分の生き方について考えるきっかけとなる貴重な時間を過ごしました。



会場には道具などの展示も



材木をかついでさっそうと登場！



映像で分かりやすく説明



← ↑ 材木に墨で「新型コロナウイルス」 ↑ こちらはのこぎり引き体験と書いてから、その文字をかんなで削り落としました



6年の先生とのこぎり対決

生形さんは、高校で弓道部に入部し、県大会で優勝したりインターハイで決勝に進んだりといった経歴もお持ちです。その経験を生かして、社寺の上棟式では「破魔矢の儀」(棟から地上へ矢を放ち邪気を払い落とす行事)を披露しているそうです。本物の弓と矢を使用する本格的な古式伝統行事で、現在行えるのは生形さんだけのようです。そんなことから、最後に破魔矢の実演もしてくださいました。1・2・3組の各学級で用意した願い書を貼り付けた的を目標けて、矢を放つ姿を見せてくださいました。3矢とも見事に命中！！ さすがです。

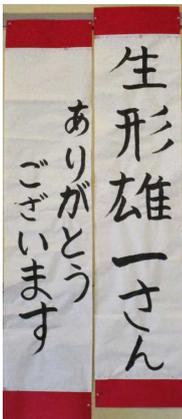


破魔矢の儀の実演
矢が命中しています



こんなに大きなトラックでたくさんの荷物を積んでくれました

子供たちの感想～お礼の手紙から



この度は「生き方の講座」でお話をしてくださり、ありがとうございます。生形さんがしてくれたお話のおかげで、ぼくは将来について考えようと思いました。どれも生半可な気持ちではできない仕事はたくさんあり、その中で生形さんは「あと継ぎ」というプレッシャーを背負いながら宮大工の棟梁という立派な仕事をこなしているのは、話を聞きながらとてもすごいと思いました。この話では実際には体験できなかったけれども、見ているだけでもすごく宮大工の魅力が感じられました。一つの神社やお寺などに1～3年かかると聞いて、あらためて宮大工は大変な仕事だと分かりました。この体験は一生忘れません。また会える機会を楽しみに思っています。(留江田 さん)

今回は、生き方講座をしに、坂東小に来てくださってありがとうございます。私は「THE! 鉄腕DASH!!」が大好きでよく見ています。ダッシュ島神社の再建も見て、実際に生形さんの話を聞かせてもらい、よりいっそう神社が好きになりました。

私の将来の夢は、自分自身を使って失敗も成功も全てひっくるめて好きになれる仕事“声優”“女優”“アナウンサー”…たくさんなりたいものがある、まだ悩んでいます。どれも仕事というのは難しいものばかりで、大変です。その中でも宮大工は全国を渡り歩いていると聞き、とても尊敬しました。中学校の部活やこれから私に起こる物事に全力を尽くそうと思います。本当にありがとうございます。(木に字を書かせてくださり、ありがとうございます。楽しかったです!)(平松 さん)



坂東小6年生に 宮大工の技紹介

生形さんが生き方講座

伊勢崎

伊勢崎坂東小(内藤 武志校長)は21日、伊勢崎市の同校で、いせさき教育アンバサダーで宮大工の生形雄一さんを招いた「生き方講座」を開いた。6年生82人が講演や鉦がけの体験などを通して日本の伝統を学んだほか、自身の将来について考えた写真。

生形さんは自身が携わった社寺建築の写真を見せながら、宮大工の仕事を紹介。高校時代に弓道に打ち込んだ体験が、上棟式で弓を引く行事に役立つことを例に挙げ、「皆さんも、今やっていることが大人になって役立つことがある。頑張っってほしい」と呼び掛けた。

鉦がけのこぎりひきの体験もあり、代表児童が生形さんからこつを教わりながら、真剣な表情で挑戦していた。

生形さんには、とても手際よく、そして分かりやすく宮大工の仕事について子供たちに伝えていただきました。

前もって学校に来校して、6年の先生たちと時間をかけてじっくりと段取りやセッティングを確認して当日を迎えるなど、あふれる熱意と誠実さ、そして子供たちを喜ばせたいというサービス精神やユーモアを感じました。その熱意は子供たちにも十分届きました。

授業後は、生形さんから「坂東小の6年生は、とてもしっかりとまじめに話を聞いたり、積極的に実演に参加したり質問したりできるので感心しました。」とほめていただきました。

1月22日の上毛新聞にも掲載されました